



教会と世界における 信徒マリアニスト共同体 (MLC)

「現代の人々の喜びと希望、苦悩と不安、とくに貧しい人々とすべての苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、苦悩と不安でもある。真に人間的なことがらで、キリストの弟子たちの心に響かないものは何もない。」

現代世界憲章 1
第二バチカン公会議

「キリスト教の奥深いところで信仰の神聖なる光がゆらめき消されています。徳は日々小さくなって姿を消し、邪悪はすさまじい激しさで増大しています。私たちは今、広範囲におよぶ背信と至るところに存在する棄教を予言した時代に生きていると言えるかもしれません。しかしながら、不幸にも今の時代を真に現しているこの記述によって、私たちは希望を失うことはありません。マリア様の力は衰えていません。私たちは、『マリアは、他のすべての異端と同じように、この異端を打ち負かされるだろう。なぜなら、マリアは今もいつも、卓越した女性、サタンの頭を砕く約束された女性であるから』と堅く信じています。」

ギョーム・ヨゼフ・シャミナード
1839年8月24日付 黙想会の指導者に宛てた書簡

1. 導入

- 1.1. 世界の MLC がここ数カ月にわたって実施した調査によって分かった世界中の教会と社会で MLC が活動したすべての善いことについて、神に感謝しています。同時に、確固とした勇気ある希望に満ちた応えを私たちに問い求めている下記の点は、謙虚に認める必要があります。
 - 1.1.1. わたしたちは世界のニーズに気づいていますが、そのニーズに対して実践的な行動を起こす必要があります。
 - 1.1.2. 自分たちの共同体を大切にしていますが、お互いに協力し、より大きな共同体の一部であると感じることは、依然として難しいです。
 - 1.1.3. 新しい召命のために働いていますが、その実りは少ないです。
 - 1.1.4. 社会と政治に関してのかかわりは、きわめて少ないです。
 - 1.1.5. 時間と祈りは分かち合っていますが、財政的な分かち合いは依然として困難です。
 - 1.1.6. 教会の一部だと感じていますが、信徒参加の分野では十分な存在感を示していません。

2. 共同体とマリアニスト家族

- 2.1. わたしたちはマリアニスト家族を、共同体の中で自分たちの信仰を生きる自然な形として理解しています。これはマリアニスト・カリスマに相応しい直観です。わたしたちはマリアニスト家族の組織における対等な関係を特に評価します。その対等な関係において、信徒マリアニスト共同体 (MLC)、汚れなきマリア修道会、マリア会、アリアンス・マリアルは、ユニークなマリアニストの召命に基づいて、一致のうちに、相互に依存して活動し成長しています。わたしたちは、現在および近い将来において、枝どうしが協力し提携する新しい機会を見出すことを提案します。
(四つの枝が一緒に住む共同体、協力して行うミッションなど)
- 2.2. わたしたちの共同体と会員の基礎は、わたしたちの真の解放者であるイエス・キリストの中に見出されます。マリアをモデルとして、神との関係を深めるよう努めます。創立者の言葉と行動に鼓舞されて、共同体においてそのようにします。
- 2.3. 個人主義に直面して、共同体として信仰を生きることを選びます。わたしたちは、霊性を探し求めているすべての人（この時代の特徴）に向けられる愛のシンボル—喜びの源である解放する神についての真の体験—をこの世界に提供します。
- 2.4. この神体験は、わたしたちがすべての人とオープンな話し合いの精神を持つように励まします。みんなと一緒に、より公平で寛大な社会の建設に協力するようにしてくれます。わたしたちの共同体は、人々に対して友好的な姿勢とアプローチで特徴づけられていて、各々が持つ時間とスタイルに敬意を払っています。イエスの霊は、すべての人をあるがままの姿で歓迎し受け入れるようにわたしたちを動かします。
- 2.5. 共同体は、何よりも、祝い場、信仰の経験の場であり、個人的な祈りを深める場です。わたしたちの意図は、祝いがより参加的で、より活発なものとなり、共同体が創造と刷新でより豊かなものとなることです。時のしるしに答えるために、それが重要だと考えているからです。
- 2.6. 共同体の生活全般を照らすマリアニストの伝統の中に、これらの霊示とモデルを探することを提案します。また、ある国でよい結果をもたらしている解決策を、特に養成と新会員募集に関して困難な状況にある人たちに伝達する手段を講じなくてはなりません。
- 2.7. この世界でよりよいキリスト者であることを目指すために、MLC の養成を強化する必要があります。そのために、私たちは、MLC の養成をよりよいものとするための信徒と修道者のリーダー養成の準備に、マリアニスト家族の全ての枝が参加するようにします。
- 2.8. すべての共同体は、様々なイニシアティブを発揮して新しい会員にアプローチし、彼らを歓迎しようと努めます。しかし、あまりに多くの国々でいい結果を生み出していません。これについては、従来の方法やスタイルに関して個人的また全体的な反省が必要です。
- 2.9. わたしたちは対等な共同体ですから、要請される財政的な支援、援助、仕事の履行に対する明確なコミットメントがなされるのを期待します。目指すゴールに到達し、適切で持続可能な共同体に必要な、欠かせない人材と経済的資源についてよく考える必要があります。
- 2.10. MLC にとって主要な挑戦のひとつは、自分たちがおかれた状況の中で、対話を通して自由に意見交換ができる環境を整えることです。その結果、より大きな社会的、変革的な影響と、より積極的な宣教的コミットメントがもたらされるのです。

- 2.11. わたしたちは、イエスの弟子として、自分たちの状況のもつ新しく複雑な挑戦に応える適切な方法を探したいと願っています。わたしたちは新しい変化の段階に入っていていますが、その局面で、主は、「自分の故郷を去り」（創世記 12：1）、他の共同体、地域、国そして世界に心を開くようにと、わたしたちを明確に招いておられます。わたしたちの共同体は他の共同体とお互いに遠く離れているので、お互いの関係を維持し、マリアニスト・カリスマを成長させ、祝うよう努めます。
- 2.12. わたしたちは、共同体において、霊的で養成に役立つ糧を探し続けます。しかし同時に、社会正義とわたしたちの共同体の持つ宣教的な側面をさらに強めるためにも働きます。わたしたちの直観は、マリアニストの旅が相互支援の新しい宣教計画を造ることから始まるということです。そのことは、物品や財政的資源を分かち合うというより、好ましい雰囲気をも作り出します。たとえばわたしたちがほんのわずかしか持っていなくても、MLC の会員と共同体が簡素に生活し、物質主義を避けるよう奨励します。

3. 教会

- 3.1. 洗礼によって、わたしたちは教会の一員となっており、マリアニスト家族を通して、教会に参加しています。マリアのように、わたしたちの現実が抱えている新しく複雑な挑戦に対する正しい応え方を見出すことができるよう、祈りのうちに聖霊の働きに対して開かれていようと努めます。
- 3.2. 人々が抱えている重要な問いに答えるために、イエス・キリストのメッセージをあらゆる人々に提供します。特に、探し求めている人たちに私たちの霊性を提供します。
- 3.3. 第二バチカン公会議は、わたしたちにとって、教会における新しい積極的な信徒の役割、多くの新しいビジョン、重要な挑戦に対して扉を開いた重要な出来事です。わたしたちはその達成に向けてより多くのことが実行されなければならないと考え、この公会議の文書に基づいて自分たちの養成を深めるよう提案します。
- 3.4. わたしたちは、MLC が教会生活における信徒のより直接的な参加と、より開かれた意味のある参加を可能にする方法を見出す必要がある、と思います。
- 3.5. わたしたちは、教会の典礼が一致のしるし、および手段であることを信じます。典礼をより近付きやすいもの、祝賀的なもの、生き生きとしたもの、多様な文化を反映するものにするによって、より積極的、意識的な参加を促進しなければなりません。
- 3.6. マリアニスト・カリスマについての知識がより深まるにつれて、自分たちが何者なのか、何をするのかということ、より広がりのある教会において分かち合いたいと思います。自分たちの生活の証しを通して、教会に対してこのことを目に見えるものとすることができます。
- 3.7. わたしたちはより謙遜で、理解があり、対話を重んじる教会、富んでおらず、人間の現実により近い教会を促進します。
- 3.8. 信徒の積極的な関与（これは第二バチカン公会議、他の教会文書、マリアニスト家族の創立者たちの霊示から受けた招きなのですが）は、とても重要です。信徒マリアニストとして、わたしたちは教会の中でもっと責任を担うよう呼ばれています。あらゆるレベルで、つまり地方、地区、国、大陸、国際レベルで、わたしたちは教会の信徒組織に場を占めなければならないし、信徒と

修道者の対等な弟子としての経験を分かち合わなければなりません。

- 3.9. わたしたちは教会の意志決定における女性のより積極的な役割と参加を促進します。
- 3.10. わたしたちは、わたしたちのグループにいる若者たちを励まし、また、他の若者たちとより効果的に接触する新しい方策を見つける必要があります。それは、彼らが教会において自分たちの才能を最大限に発揮するためです。

4. 社会

- 4.1. わたしたちの共同体は、わたしたちが生活している社会の一員であり、そこでマリアニスト・カリスマを具現します。
- 4.2. 信徒に相応しい特有のミッションは、この世界で実行されなければなりません。わたしたちの証しと行動によって、この世界の変革と公正な社会機構の構築に貢献するためです。
- 4.3. 家庭生活は、キリスト者としての信仰、価値観、使命を育む基本的な場でなければなりません。家庭はマリアニスト共同体の本質的な部分を形成します。わたしたちは一人ひとりの人間の尊厳を敬うよう努めます。
- 4.4. 意識的な生活様式によって、福音の諸価値に基づいた生活を体現するようになります。個人的また共同体的な識別によって、家庭で、職場で、また教会と社会でのより積極的な参加において、これらの価値を男女の関係に応用させるようになります。
- 4.5. 世界の現状に直面して、MLCは正直さ、誠実さ、協力、職業意識、努力、仕事上の責任を支援します。会員にとって、福音の価値に対して真摯であることは不可欠です。生活のあらゆる分野で、マリアニストとしての私たちの行動は他の人々の心の琴線に触れ、社会に影響を及ぼすでしょう。
- 4.6. 社会においては、不平等を生み出す特権と分かち合いを躊躇する気持ちもまた、共同体に影響を与えます。多くの場合、わたしたちは自分自身を支えるのにどうしても必要なものを分かち合おうとはしません。しかしながら、わたしたちはこのような態度を変える必要があると感じます。物と資源を分かち合う新しいやり方に向かって進む時が来た、と考えます。
- 4.7. わたしたちは、人権の尊重に関してバランスの取れた政策を定め、履行するために、陳情活動と支援運動を通して正義を促進するよう招かれています。
- 4.8. わたしたちは、不寛容からもたらされる暴力に反対します。MLCは、他の宗教との積極的な関係を発展させることによって、平和を促進し、調和の中に生きようと努めます。
- 4.9. わたしたちは、すでに、個人的にも共同体としても、宣教精神を育成する旅を始めました。社会問題へと自分を振り向け、あまり恵まれていない人々に対して共同体として明確で実践的な選択をし、私たちが自分の時間、物、才能をより一層他の人たちと分かち合うようにしてくれる手段を講じています。
- 4.10. わたしたちは、自分の消費習慣を変え、物と財源の使い方について反省し、正義を支持する社会的な運動に積極的に参加し、開発途上国における協同計画と同様に、自分の国の開発計画を支援するよう提案します。

- 4.11. グローバルな世界を変革するという希望をあきらめないで、私たちの周りの身近な世界を変えるために、「草の根」運動や組織（町内会、社会的なサービスを提供する組織、政党の活動、社会と教会的な運動、・・・）に関わることが必要です。
- 4.12. 最後に、これらすべての変化へのイニシアティブが実現して世界に広がり、わたしたちの共同体を越えて分かち合われることを信じます。マリアのように、「彼が私たちに言いつけたことは何でもするよう」人々を招きましょう。そうすれば、母マリアと共に歩む道に結ばれて、わたしたちは御子に到達します。

罪の汚れのないおとめマリアによって
父と子と聖霊が至るところでたたえられますように。
アーメン。

この文書は 2009 年 8 月のケニアのナイロビで行われた
第 5 回信徒マリアニスト共同体の総会で承認されました